

川上村地域づくりインターン報告書

東京女子大学現代教養学部

国際社会学科社会学専攻

2年 中村風花

◆はじめに

私がこのインターン事業に参加することになったのは昨年度に参加した先輩が大学の授業で宣伝をしたことがきっかけでした。正直なところ、もともと地域の問題や林業にそれほど興味があったというわけでは無く、「地域づくりインターン」という事業の存在もその時初めて知ったほどでした。しかし国内の自分が今まで行ったことのない土地に行くことが出来る点や、そこで様々な事が体験できる点などはとても魅力的に感じられました。そして地域の抱える問題を知識としてだけではなく、実感として捉えることができるようになるかもしれない。更には自分自身の成長にもつながるかもしれないとも考え、応募を決めたのです。

2週間という短い期間ではありましたが、私がインターン期間中に気づいたこと、考えたことを以下にまとめたいと思います。

◆気がついたこと・疑問点・問題点

① 交通

想像していたよりは悪くないと思った、というのが正直な感想です。もっと山奥の僻地にあるのではないかと勝手に想像していたので、村内を通る整備された広くてきれいな道路には驚きましたし、山の上のほうにある集落の中までもがきちんと舗装されていたのはとても意外でした。また、お盆期間という事も影響していたのですが、交通量も想像よりは少なくなかったです。しかし皆さんが仰っていたように、面積の広い村内に各集落が点々としていることや街までの距離だけでなくスーパーやコンビニまで行くのにも時間がかかること、車が運転できなくなった場合の不便さ等を考慮すると、やはり村に暮らす人にとっては問題もたくさんあるのだろうなと感じました。

② ダム

「ダムが2つある村」が全国にいくつあるかは分かりませんが、インターンに来る前はこれも川上村の一つの特徴と言えるのではないかと考えていました。しかし村の方にお話を聞いていく中で、どうも人々の中のダムの重要度が低いのではないかというように感じました。インターン日程にダム見学が含まれていたのもツアーと豪雨体験があるから一応、というような印象を受けましたし…川上村に限ったことではないと思いますが、ダムと村の関係は難しいのだろうなと漠然と感じました。

③ 施設

事前にいただいた資料に目を通したときから思っていたのですが、源流館やもくもく館、実際に中には入っていませんがホールなど、きれいな施設がたくさんあることに驚きました。しかしそれらの利用者数や稼働率がどれほどのものなのかも気になりました。

④ 水源地の村

水源地の森を案内していただきながらお話を聞いたり源流館を見学させていただいたり、川上宣言のお話をさせていただいたりと何度も「水源地を守らなくてはいけない」という言葉を耳にしました。実際に源流館や役場の方が水源地の保全、川上宣言の実行の為に尽力なさっているという事がとてもよく分かりました。しかし、それほど多くの方にお話を伺ったわけではないので断言していいものではないと思いますが、村民の方の中にも水源地を守るという意識が強くあるというような印象は受けませんでした。本当のところはどうなのか分からないので私の勝手な想像ですが、もし私が川上に住んでいたら、村は川上宣言や環境条例というものを出したらしいなあ。と、少し自分と距離を置いて考えてしまうと思います。村の人全員がとても意識を高く持っていて全力で水源地の森の保全に努めている、というような構図はさすがに期待しませんが、せっかく宣言が出されているのだから、もう少し水源地の村に住んでいるという意識や自信のようなものを持てるようになればいいのではないかと思います。繰り返しますが、あくまで私の受けた印象なので実際は皆さん水源地ということをととても大切にしているのかもしれないし、そうだとしたらかなり失礼な事を言っていると思います…しかし、「村民が水源地の村に住んでいるという自覚を持っている」という事が村外から来た人に伝わるようになればいいのではないかと思います。

⑤ 人

前述の通りたくさんの方のお話を伺うことはできませんでしたが、何人かの方々の意見を聞いて私が感じたのは、観光客や新しい住人に来てほしいと思う反面知らない人が入ってくるのは怖いという意識も持っているようだという事です。勝手に「田舎の人」は人が訪ねてくれば温かく受け入れてくれる、「田舎の人」は優しいという大雑把なイメージを持っていたのですが、今回川上村では、意外と村の人は警戒心が強いかもしれないという事を感じました。そもそも川上の人を田舎の人を称していいのかは微妙なところだと思いますが…。もちろんインターンでお世話になった方々は私たちのことを快く迎えてくださいましたし、突然のお宅訪問にも関わらず家の中まで上げてくださった方もいらっしゃいました。ですが、それは私たちが役場のインターン生だからなのだろうなという事も漠然と感じました。それから、これもただの私の受けた印象なのですが、平たく言うと田舎の人っぽくない人が多いと感じました。冷静に考えれば、今の日本に所謂ステレオタイプのな

「田舎の村」がどれほどあるのかは分からないし、たまたま私が出会った人たちがそうだったかもしれないのですが…地方の林業で栄えた地域という事で勝手に貧しい村なのではないかと思っていたのですが、川上村自体や村の人々はそんな地方のイメージとはかけ離れていました。

◆提案

他とは違う「川上村」として

地場産業の発展や人口を増やすことに対しての提案が出来ればと思うのですが、林業衰退は日本全体の問題ですし、過疎の問題を抱える地域も少なくありません。ただの言い訳ですが、これらについては特に提案できるようなことは思いつかなかったので私からは「どうやって村に人を集めるか」という視点で提案させていただきたいと思います。

実際に川上村へ行った私は川上独自の魅力が分かると言ってもいいかと思いますが、はっきり言って国内には緑が豊かな地域も、美しい川が流れる地域もたくさんあります。川上村では各種ツアーやお祭りも開催されているようですし、遊水フェスタやかみせ祭り等を見て集客力が全く無いわけではないのだという事も感じましたが、川上を知らない人にとって「これ」といった他の地域とはここが違うのだという強いアピールポイントがないように感じました。しかし、上記の交通のところでも述べたように、意外と交通量が多いということは人目に触れる機会が多いと捉えてもいいのではないのでしょうか。そこで気になったのが川上村の認知度です。何人かの方から大台ヶ原に向かう人々が村内を通過していくというお話を伺いましたが、車で走っている人たちは川上村の存在をどれくらい意識しているのでしょうか。

村に人を集めて活気を与えるには潜在的な集客力が必要だと思います。しかし、今のところメジャーな観光地では無い村に初めから「川上村」目当ての集客は期待できるのでしょうか。正直なところを難しいと思います。そこで、私は少なくとも村の中を通る人は少ないという点を生かして「通過点」としての村づくりをしてはどうかと考えます。例えば、車で走っている人がもっと「川上村」を意識できるように看板をもっとたてる。せっかく匠の聚に芸術家の方が住まわれているのだから、協力してもらってアートな道を作る。山幸彦（もしくは新たなゆるキャラ？）の置物やチェーンソーアートをいたるところに設置する、などです。これは村民にしてみれば迷惑かもしれないし、山と川の美しい景観を損ねることにもなりかねません。更に川上村はアートの村というわけではないと思うので、何故アートをそこまで強調するのかと問われると特に理由はありません。しかし、「道」が目に残れば印象に残るかも知れないし、短期的な村づくりとしては取り組みやすいように思います。また、道路が広くて大きな点や山の地形にそって適度にカーブがある点などから、ツーリングコースとしてアピールする事も出来るのではないかと思います。石油の値段が高騰するなかでツーリングは流行らないのかもしれませんが、もし二輪の交通量が多くなった場合騒音や空気汚染の問題が発生するかもしれませんが、とり

あえず様々な方面に「川上村」をアピールする手立てにはなると思います。正直に言ってこれらの案は直接的に「川上の良さ」を前面に出して知ってもらうことにはならないと思います。しかし、「通過点としての街づくりに力を入れている村」が（ほかにも沢山あるかもしれないですが）あまり見られない例だとしたら、村づくりを頑張っている村、というアピールもできると思います。とにかく、せっかく村内を通過する人がいるのだから川上村を意識してもらったら何か変わるかもしれないし、なりふり構わない感も否めませんが、多方面にアピールしようとするれば、そのがむしゃら感そのものがアピールポイントになるのかもしれないと考えました。少なくとも「ものすごい頑張って村づくりをしている村」として有名な村があったら社会学専攻の私は興味を持つし、授業で取り上げられたりするかもしれないと思います。

◆おわりに

村の主幹産業であった林業については基礎知識が全くなかったために今回もただ学ぶだけにとどまってしまったので提案には盛り込めませんでした。しかしこの経験を通して今まで興味の範囲外であった林業や山についてかなり視野が広がったと思います。そもそもの参加動機が曖昧だった私ですが、インターンの日程をこなすうちに何か村の役に立ちたいと思うようにもなりました。提案では浅はかで勝手な事ばかり書きつづらせていただきましたが、地域づくりについて真剣に考えるいい機会となりました。2週間という短い期間でしたが、本当に貴重な体験をたくさんさせていただいたと思います。滞在中に感じたことを忘れないように、今後の生活に生かしていきたいです。そして将来的に何らかの形で村に恩返しが出来ればと思います。ありがとうございました。